

何気ない一言に
「心が通い合った」と
感じる瞬間があります。



Q 黒木さんは、認知症のお年寄りを担当することが多いですね。

黒木 はい。老年期領域が担当なので。老年期の作業療法では、「過去の思い出を懐かしむこと」が治療に重要なんです。というのも、病院は物も厳しく管理されていたりして、周囲に「なじみのあるもの」がないことが、認知症の患者さんの不安を増幅してしまうからです。だから、一緒に思い出話をして、過去を懐かしむことによって自分らしさを失わないためのサポートをするのです。

「回想法」と呼ばれる作業療法・心理療法の手法です。私たち作業療法士が認知症の患者さんと日々かわりを持って、認知症の中核症状（記憶力障害や実行機能障害など）の改善はほとんどみられません。でも、一緒

にじっくり思い出話ができたときは、次の日に会ったときの表情が全然違うんです。いつもよりいきいきとしていて、自然に明るい笑顔になるのです。

金坂 エヴィデンスはもちろん大切ですが、私たち作業療法士が担当の患者さんと心を通わせることが、何よりも大事なのだと思います。私には忘れられない患者さんがいます。なかなか心を開いてくださらない方で、ある時期から話しかけるのをやめて、その患者さんの隣に座ってただ無言で作業をするようにしました。その方にとってはそれがよかったようです。「この人は口うるさく言わず、ただ黙って見守ってくれている」と感じたのだそうです。そこから、少しずつ自分の本音を語ってくれるようになりました。発症のきっかけとなった内容も打ち明けてくださって、「心が通った」という手応えがありました。そこから状態が回復されていって、いまは社会復帰されて働いておられます。

Q その女性自身が何か作業をしたわけではないのに、ただ隣で見守ることによって状態が回復されていた、と...。そういう形の作業療法もあるんですね。

金坂 ええ。私は作業療法士として、「担当患者さんのいまの状態を受け止める器になれたらいいな」と思っています。入院していると、自由が利かない面もたくさんあります。でも、そんな中でも、私たち作業療法士と接する時間は「ありのままの自分でいられる時間」として過ごしていただければと思うんです。

黒木 認知症でいろんなことがわからなくなってきたいる患者さんでも、何気ない一言に「心が通い合った」と感じる瞬間があります。たとえば、私が仕事を終えて帰るとき、「遅い時間までありがとう」とか「気を付けて帰ってね」と声をかけて下さったりするのです。

A1(人工知能)には決して置き換えられない仕事

Q 作業療法への取り組みについて、宇治おうばく病院ならではの強みを挙げるとしたら?

中川 精神科の中では、うちは作業療法士が比較的多い病院です。病院全体で30名を超える作業療法士がいますから。作業療法士が10名に満たない病院も多くあります。数が多いからこそ、ディスカッションを積み重ねたりして互いを高め合っているし、患者さん一人ひとりに対するケアもきめ細かくできます。そこが当院の強みだと思います。

手先を使った

細かい作業をすることが、

「人間らしい心」の維持に役立つのです。

